



天
機
箱

會議聽書
寮員一同之意見
豫定三策
建議

天
機
箱

4173

三



大藏經

大藏經

114
A 2190
1



大正十一年四月
大隈侯爵贈

曩日造幣寮為御用大阪出張ノ命ヲ奉シ候ニ付
該寮理務上處分方法概略之レヲ三款ニ分カテ
鄙見相添ハ豫シメ閣下ニ開陳シ既ニ其決ヲ乞
出張先キニ於テ臨機之レヲ處シ夫ニ其目途ヲ
達シ候心得ノ處首長キントル恣ニ私論ヲ主張
シ傲慢無禮至ラサル所口ナク初メニ於ケル後
是接見ノ儀申入候モ彼レ就イテ見ルヲ欲セス
宜シク我レヨリスベシト劔サヘ鄙職ニ答フル
ノ書猶已レノ名ヲ以セス加フルニ非理ノ文長首

大隈侯爵

大隈侯爵

往復書第弼ヲ參覽スバ書不通當敬ヲ決
 スルノ甚シキヲ以テ我が書記ヲシテ彼レノ書
 記ニ返付書記官ヨリセシムル等ノ形状ニテ其
 舉動實ニ絶言語候次第ニ有之候尤必然右様ノ
 儀モ可有之推察豫テ覺悟罷在候事故敢テ意ト
 セズ只管内外萬端ニ注目シ陰ニ御雇外國人各
 自ノ情實ヲ探偵イタシ候處什ニ七八ハ屈指約
 期ノ満ツルヲ俟テ居候勢是レ他ナシ偏ニギン
 ドルノ羈絆ヲ免カレントテ渴望スルヨリ出ツ
 ルモノ疑フベカラズ且又親シク寮中各局長輩
 へ三方法ノ大意懇ニ諭シ試ニ候ニ一同其意ヲ

領シ候得共敬服左袒ノ色ヲ表セズ公ニ首長ヲ
 要セサルモ誓テ工業上毫モ支障無之旨ヲ主張
 シ追ニ御雇外國人満期ニモ相成候儀此機失フ
 ベカラズ一大變革以テ真ニ皇國政府ノ造幣
 寮ト致シ度他更ニ良法無之段申張リ候因テ熟
 慮候ニ元來此行アルモノハ首長初メ約期已ニ
 差迫リ居候儀兎角該寮ヲ維持シ將來ノ好都合
 ヲ計ルノ邊ヨリ起ルモノニテ畢竟是マテギン
 ドルノ暴權ヲ張ルモノハ當初我レノ東洋銀行
 ニ約スル所ト東洋銀行ノギントルニ約スル所ト

ト多少相齟齬シテ當ヲ得サルアルヨリ来ルモ
ノ故令之レヲ改タメ一々其當ヲ得セシメ今後
各自其権限ヲ定メ彼此相軋ルノ患ヲ芟除シ隨
テ益中外人民ノ信憑ヲ厚クセントノ旨趣ニテ
已ニ三策ヲ畫シ機ニ從テ之レヲ施行セントス
ルニ令マ目撃スル所口ト探知スル所口ト又夕
衆意ノ嚮フ所口トヲ相照ラスニ皆ナ一様ニ出
テ到底預定ノ三策モ亦夕以テ直ニ當ルベカラ
ザル勢苟シクモ此一大難事武断以テ輕擧之レニ
處スル能ハス故ニ再三再四反覆熟思ノ上先ツ

寮中各負ノ意見ヲ諮詢セント窈ニ衆ニ令シテ

書

即チ寮負意見
書是ナリ

以テ其所見ヲ十分吐露セシメ

繼クニ

數回相會シテ親シク其言フ所

即會議間
以テシ

見ノ意ヲ聴取シ竟ニ其情状ヲ熟知スルニ至ル

因テ此行ニ於テハ何事モ著手セザル方然ルベ
ク假令約期已ニ近キヲ以テ東洋銀行等ヨリ促
カスノ急ナルアルモ来ル十月マテハ彼レ敢テ
我レニ迫ルノ辞柄ヲ有セザル儀ニモ有之此際
内チ十分討議ヲ畫クシ以テ他日ニ備ヘント愚
意ヲ決シ首長ト相逢已ニ整フモ敢テ一言之レ

是及ホサス尋常ノ接待以テ打過キ申候乍併從
 是以來一段意ヲ内外探討ニ注キ萬ト熟視候處
 イツレモ首長ヲ厭惡シ外人ニ於ケル一般其情
今キ忍耐ラ生ゼバ多ク至ル最早放期近キ在リ
連ナル者カ將タ感覺ニ乏シキ者 寮負ニ於テハ勿
 論嗷ニ積年ノ弊害ヲ數ヘ若シ政府更ニキント
 此ノ約ヲ繼カントナラバ一同辭去ラセフノ外
 無之ト一決イタシ居候事故最後ノ會議ニ於テ
 ハ各其言フ所口ヲ筆記セシノ更ニ之レニ各自
 ノ印ヲ鈴シテ其實ヲ證セシメ候即即ハチ會議聽
書コレナリ

寮負一同ノ見ハ首長ヲ放免シ更ニ必要ノ外人
 金分拆ニハ「ジロ」銀分拆ニハ「ハン」銅精製ニ
 ハ「ガウ」ラント「機關師」ニハ「マ」クラゴンノ四名ヘ
 適當ノ權ヲ付シ從事セシメ造幣頭ハ吾職制章
 程以テ履行政府ニ對シテ其責任ハ勿論諸負ノ
 監別使用ニ至ルマテ十分ノ權ヲ有シ候様相成
 候テ初メテ真ノ皇國政府造幣寮ト稱スベク
 乍併此時ニ方リ若シ或ハ庶議我開化猶淺シト
 徒ニ席上ノ見以テ之ヲ推シ或ハ五年前創立ノ
 日ヲ以テ今日ヲ體セラレ候様ニテハ遺憾ニ不

堪一體是マテ寮負艱苦ヲ嘗メ多年忍耐ヲ能ク
 シ盡カ勉勵彼輩ノ罵詈叱咤ヲ受クルモ敢テ之
 レヲ辱トセズ今日ニ至ルハ畢竟彼レノ所長ヲ
 採リ早ク内々其工業ヲ勸メ外巨萬ノ財ヲ彼レ
 ニ糜スルノ大弊ヲ掃攘セントノ赤心ヨリ出候
 者故萬一届上ノ論專ラ穩當ヲ旨トシ信用我レ
 ニ薄キモノアレバ積年ノ辛苦泡沫ニ属スル
 ミナラス該寮特立ノ期無之歎息ノ極此事ニ候
 因テ薦ト詮議ヲ盡サレ聊危疑ノ御懸念無之斷
 然其責任御付与有之候様致度他企望無之旨ニ

候右様ノ次第故左思右想勘辨イタシ候處一々
 尤至極ノ儀ニテ毫モ間然スル處無之到底寮議
 ノ方ニ決シ候外無之若シ将来ヲ慮ルノ深キニ
 過キ強テ三策中ノ得タリトスルモノ以テ之ヲ
 行フハ能ハザルニ非ストイヘトモ寮負悉ク辞
 退スルニ至ルハ必然ノ儀ニ有之且首長ノ賦性
 約以テ之ヲ制スベカラザルモノアルハ皆以既
 ニ已ニ之ヲ知ル然ラハ則是レ其當ヲ得タルモ
 ノトハ難申併シ寮議首長ヲ免シ東洋ノ如クセ
銀行ノ約ヲ解ク
 バ或ハ来去出入接續ノ際一時大困難モ可有之

候ハ此一同死カラ盡シ是非維持保全セシムル
ニ決シ居候儀故将来却テ萬世ノ安キニ至リ可
申且要スル所口外人四名モ探偵ノ模様ニテハ
首長一ト夕ビ去リ更ニ政府ノ約ヲ以テスレバ
甘ンジテ我レニ服従可致亦疑ヲ容レズ旁鄙職
ニ於テハ其探クル所口其見ル所口及ヒ衆議ノ
一致スル所口加フルニ鄙見ヲ以テスルモ一時
ノ困難ヲ忍ヒ永遠ノ安キヲ計リ候外無之ト相
決シ申候若シ来ル十月放免ノ儀申入彼是物議
ヲ来シ或ハ陰然我妨碍ヲ醸シ候様ノ色モ有之

候ハ、残ル俸給ヲ一時ニ付与シ直ニ放免ノ方
可然其上紛紜ヲ勾引候儀有之候ハ、休業引續
キ一時閉寮候テモ此目的ヲ達シ候程ノ果斷以
テ之ニ處シ舊染ノ積弊一洗イタシ度キトニ候
是レ其穩當ヲ得サルニ似タルモノアルカ如シ
トイヘ此早晚此變革ナキ能ハザル儀ニ候ヘバ
一日モ深カラザルノ前へ機ニ乘シ此ノ處置無
之テハ不相成ト鄙見茲ニ決シ他更ニ餘念無之
候議者アリ或ハ曰ハン此議然ルベカラズ何シ
トナレハ則貨幣ハ天下ノ至寶人民信憑ノ最夕

ルモノ加之目令外交日ニ盛シナルノトキナレ
ハ特リ内地ノ流通ノミナラズ信ヲ海外ニ取ラ
ザルベカラズ然ルヲ我開化猶淺ク工業未タ熟
セザルニ早ク已ニ外人ヲ謝ス假令平易ヲ以テ
スルモ歐米ノ士民或ハ東方ノ風習概ム子如此
キラ以テ之ヲ目シ貶議スル所アラシキ矧ンヤ
彼レノ心ニ快カラザル所口ノモノアルヲヤ此
ノ如クンバ則辭去ノ後恣マ、ニ流言シテ我々
短ヲ揚ケ他ヲシテ信ヲ失ハシムルノ術ヲ施コ
サシト必然見ルガ如ク此時ニ方テ聲譽ト流通

トノ間損益得失測ルベカラザルモノアラシ
是レ威信上ニ於ケル又理財上ニ於ケル大患ヲ招
クニアラズヤ且ツ方今内外多事加フルニ戒心
アルノ時勉メテ外人ニ接スル亦夕意ヲ用ヒテ
ルベケンヤ就中東洋銀行ノ如キハ維新ノ際ヨ
リ令ニ至ルマデ理財上我カ為メニスル所アリ
我レモ亦彼レニ依ラザルナシトセズ一旦該寮
ノ變革ヨリ彼輩ヲシテ圭角ノ念ヲ抱カシムル
モノアラバ則チ異日悔フトモ亦及バザルノ損
失アラシキ必セリ故ニ其屈スベキモノハ枉ル所

ロアルモ亦宜シク屈スベシ苟モ愛國ノ念アル
モノ豈注目セザルベケンヤ然ラバ則後事ノ諸
負 皇國ノ為メ更ニ一層ノ忍耐ヲ能クシ宜シ
ク禍ヲ未萌ニ防クベシト此言ト理アルニ似
レドモ鄙見ヲ以テスレバ大ニ異ルモノアリ先
ツ其初奈ニ就テ之ヲ弁ゼンニ創立ノ初メ三年
ヲ豫シメシテ以テ外人ヲ傭フ後更ニ増スニ二
年ヲ以テス令又夕之レヲ継カンニハ二年乃至
三年ヲ期セザルヲ不得已ニ此期ヲ過了シテ寧
日噬臍ノ悔ヲ致スアルモ此紛議ナキヲ保タン

ヤ然ラバ則只少シク時ニ遲速早晚アルニ百
世猶期ナシ何レノ日カ我レノ造幣寮タルヲ得
ン惟フニ適當ニ處スルノ切ナルニ過キ專ハラ
因襲ヲ以安シトシ變革ヲ以テ危シトセバ理財
上常ニ獨立政府ノ威信輕重如何ンヲ見ルノ時
ナク又夕其工業進歩如何ンヲ知ルニ由シナシ
隨テ我レノ美ヲ以テ悉ク彼レニ歸スルニ至リ
猶工事ニ精シキ歐洲ノ名聲ト資本ニ富ム東洋
銀行ノ權勢トヲ假リ候姿ニテ永ク國体進歩ノ
真域ヲ見ル能ハズ故ニ假令一時一大困難ヲ歷

ルモ之レラ遂クルノ後テ信ヲ中外ニ全クスル
アラバ於是初メテ真ノ御國信ヲ見ルヲ得ベシ
因テ令機ニ乘シ寮負奮發ノ銳ヲ不挫脱然其任
ヲ負ハシメハ寮務真ニ整頓シ工業上亦夕過マ
ツ所ナキラ保タシ其二條ニ於ケル稍取ルベキ
モノアルニ似タリトイヘ此論情ニ偏シテ理ヲ
顧ミス過慮ノ甚シキモノアリ抑令ニ於テ該寮
ノ變革アルモノハ敢テ異トスベキナシ東洋銀
行及其他ノ輩圭角ノ念ヲ生ズルハ理ニ於テ無
キ所口當初三年ヲ約シ後更ニ二年ヲ継ク毫モ

彼レノ意ニ滿タザルモノナキヤ素ヨリ言ヲ俟
タス設使彼レノ意中挾ム所アルモ安クシゾ他
日理財上ノ損益ニ關スルモノアラシヤ是レ議
者ノ其一ヲ知テ以テ未夕其二ヲ知ラザル所口
ナリ凡ソ理財ノ道ハ相与ニ利ヲ主トス故ニ親
疎ト好惡トヲ論ゼズ營利ノ有ル所口競フテ相
趨ムクノミ人ノ利ニ於ケル兄弟以テ交ルモ亦
肯セザルモノアリ仇敵相視ルモ亦夕共ニスル
モノアリ肯セザルモ親睦ヲ害セズ共モニスル
モ怨隙ヲ釋カス天下ノ通義亦怪シムベカラズ

何ニゾ慮カルニ足ラン是レ鄙職ノ以テ己ニ意
ヲ決スル所ニ有之候凡ソ物得失ナキ能ハズ之
レニ慶スルノ際審案熟慮往ヲ推シ来ヲ察シ以
テ得失相照ラシ得ル所口多キニ從テ之レヲ断
ゼンノミ依テ此行ノ顛未及鄙見トモ併セテ致
具陳候也

明治七年九月

大藏少輔吉田清成

大藏卿大隈重信殿

大藏卷